とかち新聞
主筆　松山明
（発行所）北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話2551番
毎月5の日発行　1カ月300円　1カ年前納　3,000円

水元派が強力陣容で

本別町長の三巴戦

水元孝夫後援会の第六次会は十二日午後一時すぎから本別農協三階大ホールにゴザを敷いてつめ込んでも入り切れず、第二会場の農協会館と合せ一千三百五十一名（主催者側発表）の会員があつまつてひらきました。

はじめに後援会長の石山利雄氏から『みなさま町長選挙を目前にして後援会の有力メンバーである作間さんをはじめ顧問会長の高木さんなどが前出の矢野さんと民喜した、十二年間同志として信頼してきたのでなんとか思いとどまつてもらいたいと長谷川さん、牧田さん、方川さん、鳥居さんともども矢野さん方を説得し、十二月三十日夜どうやら一本化の見通しがついた明けて元旦、体育館の新年交礼会の席上で野田さんが名に「先生、君と高木さんは一本化の方向に努力しているのだが、下部から反対の声が強く困つたことになつたがなんとか十日ごろまでにはまとめたいから諒承してほしい」という話しがあり、三月三日ついに矢野さんの立起が決定したことを事務局の高橋さんからきいた、野田さんから未だに音沙汰はない、残念にたえない、この日本の難しい状勢から

◆…国会は衆参両院ともに与野党伯仲ということで野党が本当に結束すれば、大企業本位の新年度国家予算を、いくらかでも一般大衆の側に有利に修正することができたのであり、そのために社会党、公明党、民社党、共産党、新自由クラブの五野党のあいだで予算修正についての話し合いがおこなわれたものの、そのなかでも新自由クラブに至つては一兆円減税の要求はビタ一円も負けられないと、もつとも強硬だつた新自由クラブが最後のドタン場になつて、他の四野党を裏切つて自民党側と単独取引で予算修正は取り下げてしまつたものです。

◆…与野党伯仲といつても、新自由クラブの十四名がついてくれれば自民党はひと安心で、議席の上からは予算案の無修正通過は確実となつたようなものです

◆…そのかわりに自民党に旗をひるがえして新自由クラブをつくつた宮義はなく、ロッキード事件で評判の悪い自民党を離党していう子になろうとした野心家と分裂主義者のあつまりでしかなかつたわけで、新自由クラブは解散して自民党に頭を下げて復帰すればよいのですが、その度胸はないようです。

◆…保守は保守、革新は革新でハツキリと割切るべきなのに、新保守とか中道革新とかと称する野党がアッチとくんだりコッチとくんだりして、政界を不明朗な取引きの場にはしたくないものです。

ニュースを斬る

自民党ひと安心

水元町政の総仕上げを

選挙の前年に迫られて登場した水元孝夫氏は『実は年末ではもう長くなるしご遠慮申しあげようと考えていたが、保守各位、各団体、組織の方々から立起のしようようをうけましていままでのご恩を考えて自分のわがままだけを通すことはできない、強力を通知で決意をした、私は四十一年に町長に就任したい町政の将来の方針を明確にした、当時の町財政は苦しく赤字だつた、そこでまず財政の建て直しをやりながら国や道の力を大いに活用してみなさんのための公共事業を四十二年に行財政五カ年計画を樹て計画は上々成果をおさめた、引き続いて四十六年に総合振興十カ年計画を町議会の議決をへて確定した、その柱は第一に教育の充実、第二に福祉施設の充実、第三に生活環境の整備、第四に産業の振興、第五に道路交通網の整備ですすめてきた、この十カ年計画もあと四年間で完成するが、もとより最初に掲げた計画をそのまま押し通しているわけではなく、時々刻々社会の状勢は変つており、したがつて計画の実施にあたつては毎年度計画の見直しをいたし、たとえば五十三年度は五十三、五十四、五十五年度を見通し、実態に合うように仕事をすすめている、みなさんのご支援によつてまた町政を引当させて頂けばいまの方針と計画を完遂するため全力をあげて参りたい」と述べてから具体的に、水道拡張を三、四年中に永久建築にする、本別保健所は本年旧役場跡へ移転するのでその跡へ来年度総合会館的なものか福祉センターを建て翌年度は現在の公民館をつぶして図書館兼文化センターを建設する、その資金も準備している、上水道は明年完成させるなどのほか産業振興の政策を明らかにしました。

井出・矢野氏両派を批判

このあと水元陣営が花束贈呈をうけてから第二会場へ向い、一般有志代表として島居健太郎氏が『私のうしろに天野明博さん、私の前に吉田純男さん、この議会の大ベテランが坐つている、君さに任せいろいろ参考になるお話しをしたい、先ほど町長はめつたにないこと私はこう申すんだと珍しくはじめて申しあげた、ホラを吹く人ではない、たとえば口を出して申しわけないが、水元側近の第一人者といわれる相馬覚了氏、この方はどうなんでしようか、絶えず黒幕的存在となつている、岡崎さんが出るときは岡崎さん、水元さんが出るときは水元さん、こんどは自分のいうことがきかなくなると矢野さんだといろ、矢野さんも井出さんも立派な方だが、自信をもつた政策があるでしようかこの五月のたたかいは政策のない争点のない選挙がおこなわれようとしている、わずかな人のグループによつてあるいは次者会議、あるいは恣意な立起の仕方と新聞に書かれているが、次者会議は井出さんが「町を育てる会」をつくつて町長選挙に立起するスタートで応援するのは安久津清人、野崎武さんなど自民党の方々だつたが井出さんの身内の不幸や会社のことで辞りる日実に六者会談となつた昨年の暮から矢野さんが立起するというウワサがあつて水元氏のウケ皮だという眼医師でありマンジュウと同じで食べてみたければわかもない、暮に水元派と矢野派との話し合いがあり、長谷川さんは矢野さんの顔頃で苦しい立場だがもう一期待つたらと説得したが高木さんが絶対反対、方川議長は町議もやつていないし いまの議会の空気から矢野氏が一人飛び込んでは難しいといつた、井出さんも議員経験者なのに同調する業者は一社もない、高木さんは水元後援会の常任顧問会長なのだから総会なり緊急役員会なりの手続きで決めるものならば立派だつた」と発言し朝日明氏の閉会あいさつで午後三時三十五分に閉会しました。

建設業者十八社が集結

本別町の建設業二十社のうち水元氏支持を打ち出した十八社の経営者、従業員など一千五百二十名によつて組織された「町づくり有志の会」（吉田純男会長）では二十二日午後一時すぎから鳥居会館に三役会名の会員をあつめて研修会をひらきました。

はじめに山本実氏の開会あいさつがあつて、本間金蔵氏から「経営者の今後の方針」岡田清治氏から「従業員の生活安定について」それぞれ意見発表があり、吉田会長のあいさつのなかで『昨年度の国、道、町の建設事業は二十九億でそのうち十四億円は水元町長の町政によるもので、われわれの血となり肉となつている、町の発展か停滞か五月の町長選挙に向つて三人の候補が動をすすめている、井出、矢野候補はどうどうやると声明を出しているがともに水元町長の計画をとりあげている水元町長が同氏を指摘しているようなものである、しかし同氏はなんといつているか、三選だからやめたらどうですかと、どこかの座敷でお茶飲みばなしで出たことをいい、水元町長は冷たいとかいつているが、水元町政にその軌行にだれ一人みじんの非難もない、私は過去六人の町長に仕えたが、いずれも一期目に替つた本別町は仕事が少しわかつたころに一期はおわり、だから水元町長の十二年間をご覧なさい、なんといつても執行は町長にあるので経験豊かな人でなければならない、たとえば水元町長以外の方が町長になれば人事もあり六月に入る、ふつうなら五月からドンドン仕事がはじまるのに六月になつて人事の配置が決まり、予算についてはこれはだれにきいたらよいのか、役所、道庁へのあいさつまわりに一カ月はかかる、九月定例会でなければ事業予算は決定できない、そうなればそろそろ雪もくる、それでは困るので十八社が結束して水元さんにお願いしたが町長は仲々返事をしなかつた、またオシに四期をやれというのか、それでは楽しく遊べるときもなくなるといわれたが、攻めて攻めてお願いした十八社に四選の責任がある』と述べました。

つづいて中村敬一事務局長から活動方針について説明があつて、水元町長からこれからの建設事業についての報告があり、午後三時すぎに閉会しました。

カメラ　八ミリ　写真材料
上野カメラ堂
上野復興
足寄町駅通り　T　五一二五一二

置きゆう車　葬儀仏具一式　花輪　生花
自動車　新津はなや
足寄町西三区　T　五一二六二六

新畳　表替　中古畳　フスマ張替
敷物一式
クロス施工
小林畳店
小林牢三郎
足寄町大通り山口整骨院前　T五一二四二八

大自然のなかの人工美
—いで湯のふるさと—
観光と保養の
芽登温泉
足寄町芽登　T　二八五五

家具と建材
信用は最大のサービス
技術と納期を誇る／
家具　建具　製造販売
住宅内装に新建材を／
佐藤家具建材店
足寄駅前　T五一二二二一番